

平成 22 年度 第 2 回病院局経営戦略会議概要

日 時：平成 22 年 5 月 14 日（金） 午後 3 時 00 分～午後 5 時 00 分

場 所：県庁 10 階 管理者室

出席者：病院局 病院事業管理者，病院局長，経営企画課長，
総合メディカルゾーン推進担当室長 ほか

病院 各県立病院長，中央病院副院長，各県立病院看護局長，
各県立病院事務局長ほか

(1) 平成 21 年度決算概要について

【説明】病院局経営企画課 予算企画担当

平成 21 年度の決算概要について説明。平成 18 年度から 4 年連続の黒字化を実現したが、内部留保資金から長期借入金を差し引いた額は、全国的にも下位にある。

【質疑等】

管理者：皆さんの 1 年間の努力のおかげで、経常利益は平成 20 年度と比べて、2 億円増額し、実質収支も平成 20 年度と比べて中央病院だけでなく、勤務医不足の海部病院で 2700 万円、三好病院で約 1 億円の改善となった。

地方公営企業法の全部適用は 29 県病院事業で行われており、その中で、平成 20 年度まで経常収支が 3 年連続黒字なのは徳島県と神奈川県。平成 21 年度も含め 4 年連続黒字は、本県だけと思う。

管理者：火曜日の日経新聞によると、地方独立行政法人に移行した自治体病院が 22 年度（22 年 4 月 1 日付）で 21 病院が増え、合計 42 病院となった。

定数条例，人事権，議会等の壁があるから、独立行政法人に移る傾向にある。だが、本県病院事業は経営的な結果を出すことで、職員定数を増やすこともできた。独立行政法人化しなくても、自治体病院は十分やっつけていけることを我々が見せないといけない。

みんなの努力によって経営基盤を強化し、自分たちで貯金を作れば、中央病院の建て替え等、新たな施策を展開できる。

平成 21 年度の内部留保金は 13 億円あるが、これは一般会計などから借金しているからであり、これを差し引くとマイナス、つまり不良債務を生じており、まだ全国的にはワースト 8 位に位置している。民間病院に例えれば、不渡りと言われ、すぐ潰れてしまう状況にある。

管理者：しかし、地方公営企業法の全部適用以降の今の世代の職員の頑張りは全国の他の都道府県に胸を張れるものであり、非常に努力している。前の世代は本気でやってくれていたのかと思うこともある。負の遺産のために、今の人

たちがやりたいことや投資が十分にできないという状況は、全てではないとしてもある。

それを教訓として、次の世代に負の遺産を残してはいけない。

「より良き歴史と伝統」は「人から人へ、世代から世代へ」伝えられ継承される。非公務員型の独法化は次の世代のことを考えていない。独法化は終着駅ではない。行き着く先は民間委譲、そして、最終は廃止ということになる。多くの苦しい状況、問題はあるが、継続して頑張っていかなければならないので、よろしくをお願いしたい。

(2) 平成 20 年度地方公営企業年鑑によるベンチマークについて

【説明】 病院局経営企画課 経営戦略担当

総務省より、平成 20 年度地方公営企業年鑑が示された。その分析結果を示す。徳島県は、経常収支比率が 100.8%であり、実質収支比率が 86.6%である。また、医師 1 日 1 人あたり、看護部門 1 日 1 人あたりの診療収入が昨年度より、減っているが、これは、医業収益が昨年度より 11 億円少なかったためである。

【質疑等】

管理者：実質収支はベスト 3 に入っていると思っていい。

他府県の病院はどうなっているのか、外に目を向けることが大事だ。情報を獲得し、業務に活かしていかなければならない。

(3) 「平成 21 年度の研修の総括」及び「平成 22 年度の研修方針」について

【説明】 病院局総務課 人事給与担当

本局所管の研修としては「高度医療研修」「県立病院学会」がある。高度医療研修には、長期派遣研修や国際学会がある。平成 22 年度の認定看護師等の推薦状況を示す。また、平成 21 年度の県立病院学会の開催状況を報告する。

【説明】 中央病院

平成 21 年度に行った研修として、医学教育センターによる取り組み CHANEL カンファレンスを取り上げる。院内研修の課題としては、各局・各担当個別の研修会、院内・局内委員会等の乱立による、職員の疲弊、重複による参加率の低下、等がある。

【説明】 三好病院

平成 21 年度には、「信頼と評価の向上」「病院機能の強化・向上」「電子カルテシステムの円滑な運用と DPC への対応」を方針として、様々な研修を行った。その知識・技能を院内で共有するため、報告会等を実施している。

【説明】 海部病院

平成 21 年度には、「DPC の円滑な導入及び推進」「各部門の専門性の発揮と

チーム医療の推進」「地域医療連携活動の推進」を方針として研修を行い、研修報告会による知識の共有化や、日々の業務の中での具現化、公開講座等の開催による地域との連携を図った。

【質疑等】

管理者：病院全体の研修が一元的に把握できるシステムを作ってほしい。

三好病院：医学教育センターとは、具体的にどのような組織なのか。

中央病院：医学教育センターのメンバーは12人程度で、それぞれの局から2名ずつほど出してもらっている。

管理者：病院の研修の責任部署はどこか。事務が片手間でやるようではいけない。みんな忙しいなかで、チームがまとまるようにしていく必要がある。

各病院：図書委員会と教育委員会である。

管理者：三好病院は図書室を整理整頓してほしい。海部病院については、コンパクトに整理できていると思う。

管理者：県立3病院全体で約8千万円の研究研修費を費やしているが、研修により取得した知識を院内に還元することが重要である。各病院の復命書については、一度、統一したはずだが、海部病院の出張伺いを参考にして、病院局が入って再度検討してほしい。

中央病院：中央病院としてのブランド力を高めるために論文等を出している。3病院まとめたものを出せないか。医師や看護師も少しはやりがいを感じてくれるかもしれない。

三好病院：三好病院としても論文集を出したいが、医師のローテーションの問題等があり、なかなか出せない。

管理者：病院局の年報の中に論文を入れることも考えてみてはどうか。

三好病院：論文を全面に出して、臨床研修医にアピールしたい。

管理者：論文も出したいが、病院の年報で、論文と一緒に掲載している年報はない。論文一覧を載せている年報はある。さらに、アピールするための方法を考えていかなければならない。

管理者：文教厚生委員会委員には県立3病院の中で、海部病院しか視察してもらっていない。医療崩壊が言われている中で、海部病院しか見ていないのは問題だと思う。県央視察なら中央病院に、県西に行ったなら三好病院に寄ってもらいたいと思うが、各病院にとっては負担となるか。

海部病院：負担にはならないと思う。

管理者：では、現場の実態を知ってもらうために、病院が負担にならない範囲で視察に来てもらいたい。

病院局：状況を把握してもらおうということで、話しを持っていきたい。

管理者：現場を見ていたら、質問をするにしても、多少イメージが湧いて質問しやすいだろう。

(4) その他

- ・次月分（6月分）の病院局経営戦略会議の議題案について

【説明】病院局経営企画課 経営戦略担当

次月分の「経営戦略会議」の議題について説明する。

- ・平成22年度の病院局経営戦略会議日程案について

【説明】病院局経営企画課 経営戦略担当

平成22年度の「経営戦略会議」の日程等について報告する。

【質疑等】

病院局：5月7日に第1回検討会を開催し、医師と医療技術員のユニフォームについての検討がなされ、現状を把握するためアンケートを実施することとなった。ついでには、情報の精度を上げるため、回収率を上げたいので、ご協力をよろしくお願いしたい。

管理者：いつから変えるのか。

病院局：来年の4月からの導入を予定している。

中央病院：県庁のエレベータに広告を出しているが、一般の人が利用するという点から考えて、各病院のエレベータに広告を出すというのはどうだろうか。

病院局：医療法上の非営利性の観点から、実施できるかについて検証が必要ではないだろうか。

管理者：一度聞いてみてほしい。